

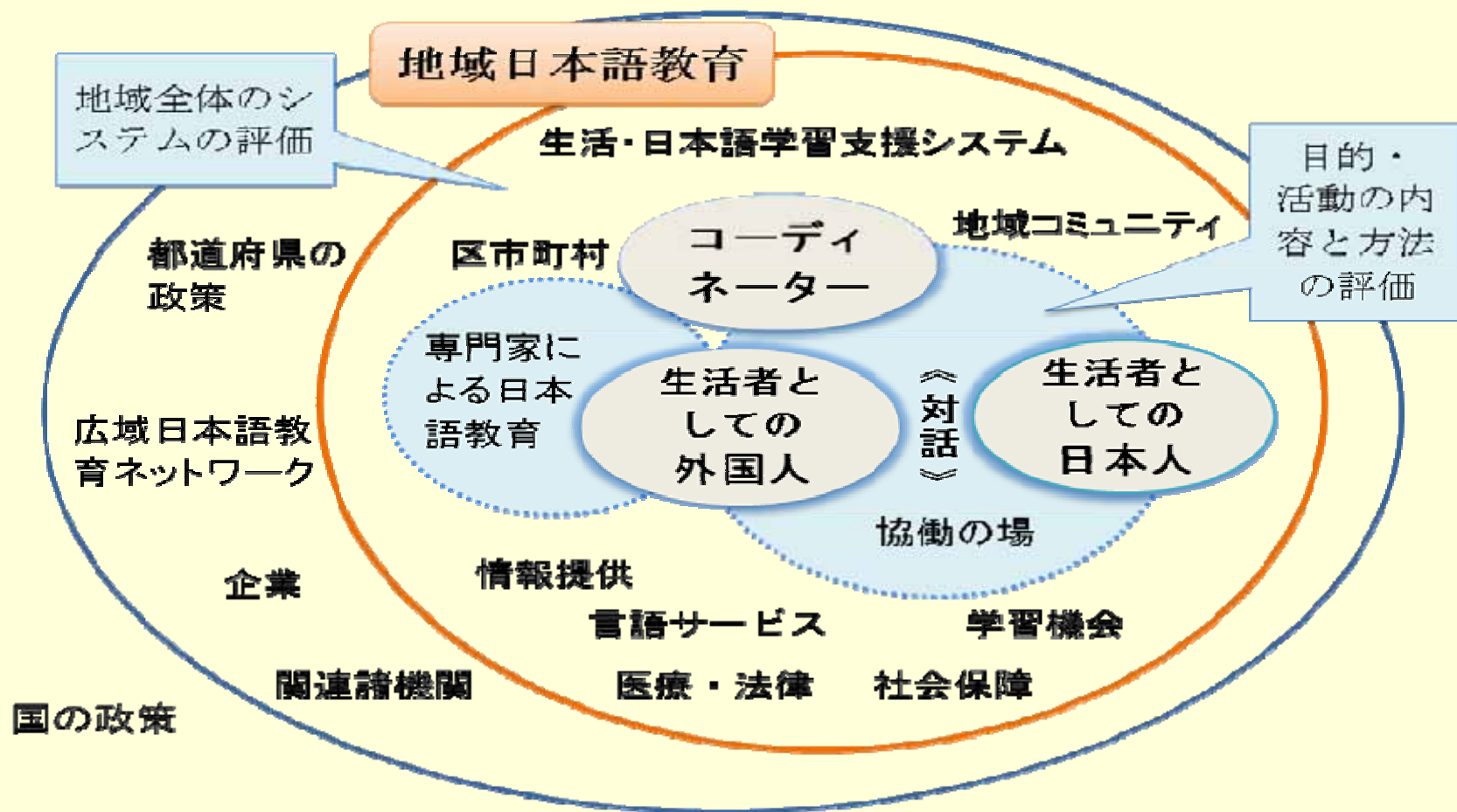
地域日本語教育における コーディネーターの機能と役割

東京外国語大学
多言語・多文化教育研究センター
杉澤経子

1 地域日本語教育とは (議論の前提として)

『外国人に対する実践的な日本語教育の研究開発－報告書－』
(平成20年3月社団法人日本語教育学会)より

(1)「地域日本語教育は、多言語・多文化を背景とする住民を含めた地域社会形成のための、**地域社会を基盤とした多面的重層的なシステム**であるにとらえる必要がある」



(2) 地域日本語教室の場の機能

- 日本社会で生活するための(日本語)学習の場としての機能
- 自分が自分として認められる場ー「居場所」
- よりよい生活を確認するために必要な情報が入手できる場
- 異文化理解の場
- 問題解決の場
- 社会参加を実現していく場

(3) 日本語コーディネーターの仕事

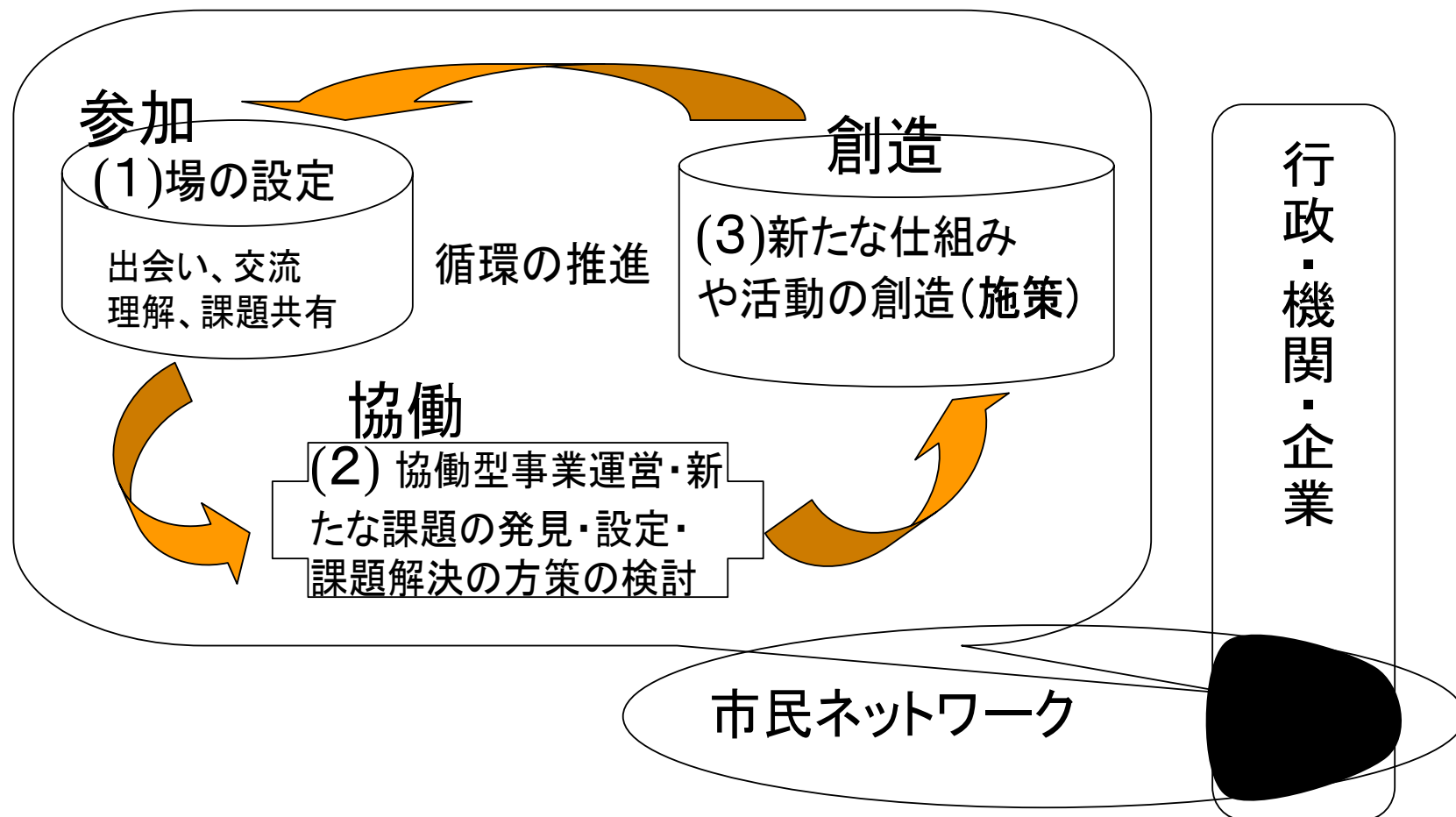
- 地域日本語教育をシステムとして機能させること
- 地域日本語教室の「場」を機能させること

2 コーディネーターとは？

(1) コーディネーターの機能・役割

組織において、多様な人々との対話、共感、実践を引き出すため、「参加」→「協働」→「創造」のプロセスをデザインしながら、言語・文化の違いを超えてすべての人が共に生きることのできる社会の実現に向けてプログラムを構築・展開・推進すること。

◎コーディネーターの機能・役割



○コーディネーターの機能

- 「参加」: 出会いの場を設定し、多様な人々の参加を促す
- 「協働」: 課題を設定し、多様な人々の協働を促す
- 「創造」: 協働の活動を通じて新たな活動のステージを創り出す

○コーディネーターの役割

- 組織内に立場を持ち、「参加」→「協働」→「創造」のプロセスの循環を推進する

(2) コーディネーターの立場

★現実的には以下の3つのパターンが考えられる。

- ①組織における独自の地位・ポスト：省庁でいる「専門員」、「専門職」、「調査官」など。本学で言えば「専門員」の地位において「プログラムコーディネーター」のポストを設けている
- ②組織における地位・ポストにともなう職務：国際交流協会のような中間支援組織の職員およびNPO等の職員が担う職務。
- ③組織における地位・ポストには直接関わりなしにコーディネーターの機能を果たす人

3 地域日本語教育における コーディネーターの仕事

(1) 地域日本語教育における コーディネーターの役目(仕事)

☆コーディネーターは、システムや場を機能させるために次のような役目を担う。

- 役目(仕事)

企画(施策)策定者

運営者(管理者)

仲介者

* コーディネーターは、日本語指導者ではない。

(2) コーディネーターは、 これらの役目をどう果たすのか

- 日本語教室におけるボランティア間、ボランティアと学習者の間で、学習支援活動を協働型で推進し、ニーズ(課題)に応じて新たな活動や仕組みを創り出す
- 行政と市民が対等に参加できる場を設定し、対話を通じて課題解決のための協働を促し、新たな活動や仕組み(施策)を創り出す

(3) 地域日本語教育を コーディネートできるのは？

地域日本語教育を「システムとして機能させる」ための役割を果たすためには、多様な組織・機関、多分野の専門家等とのネットワークの構築が求められるが、そのためには例えば自治体が設置した国際交流協会のような「中間支援組織」の職員がコーディネーターとしての役割を担いやすい。

4 体制整備に関する課題

(1) 国際交流協会や自治体など、組織の中に地域日本語教育を推進する「コーディネーター」のポストが必要。

(2) 日本語教育の専門知識、多文化社会における課題を包括的に把握し解決していくための多角的な知見と実践力のある人材として「コーディネーター養成」が不可欠。

(3) 経験・ノウハウを相互に共有する仕組みとして、コーディネーター同士のネットワークの構築が必要。